

新しい授業づくりの文化をつくる Update-A 「能力ベースの授業づくり実践講座」

令和6年4月26日実施 Update-A プラン通信 第2号 中国 教材研究会

—講座の目的—

- ①未知の問題場面に会っても、解決に向けて行動できる汎用的な力（資質・能力）を子供たちに育むため、学習指導要領に基づいた授業づくりについて実践を通して主体的に学ぶ。
- ②教師同士のネットワークを構築し、講座での学びを吹田市内で広げるとともに、自校での OJT に生かすことにより、学習指導要領に基づいた授業づくりの文化を築く。

—講座の目標—

吹田市の全小中学校が学習指導要領に基づいた授業づくりに取り組む。

中国教材研究会 4月26日(金) @ 第二中学校

教材名:『人間は他の星に住むことができるのか』

A プラン「能力ベースの授業づくり実践講座」では、教材研究会と授業研究会を1セットとして実施しています。今回は中学校国語科の教材研究会を行いました。授業者の横谷先生より、昨年度までの能力ベースの授業づくり実践講座で学んでいた「授業づくりのプロセス」と「授業づくりにおいて大切にしたいこと」をもとに進めてきた本提案について説明していただきました。齊藤先生より、教科の枠を超えて育てたい教育的認識について、国語科の教科内容と昨今注目されているトゥールミン・モデルについてご指導いただきました。この学びを基に、6月3日(月)の授業研究会へ向けて、さらなる授業改善に挑みます。

授業づくりのプロセス

単元を創る

- ・育成すべき資質・能力を明確にする
- ・見方・考え方の成長をイメージする

学習指導要領に基づいて

- ・目指すゴールに対応した問い
- ・教科ならではの学習過程（プロセス）
- ・見方・考え方を伸長させる明示的指導

本時を創る

授業づくりにおいて大切にしたいこと

子供が切実性・必然性のある問いを持つ

教師が学習過程（プロセス）も能力であると捉える

子供が自分自身の成長を実感する

授業者の提案

Why

なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

- 【知識及び技能】
 - ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。
- 【思考力・判断力・表現力】
 - ・読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。
 - ・文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えること。
 - ・観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。
- 【学びに向かう力、人間性等】
 - ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

What

何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

- 【本単元で学ぶ見方・考え方】
 - ・言葉による見方・考え方を働かせる

【本単元で学ぶ学習過程】

①構造と内容の把握

②精 査 ・ 解 釈

③考 え の 形 成

④共 有

How

どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

学習活動及び学習内容	
課題の発見	第1、2時 〇〇はなぜ素敵なのかという文章を書き、お互いに評価する。
把握	第3、4時 文章全体の内容・構造解釈
精査 解釈	第5時 本論の内容吟味① 説明文と論説文の違いを踏まえながら、過去に学んできた説明文の本論の分析を行う。
	第6時 本論の内容吟味②（本時） 「人間は他の星に住むことができるのか」の本論と、AI が作成した文章の比較を通して、本論の内容吟味を行う。
課題解決活動	第7、8時 自分の書いた文章をアップデートする

導入	展開1	展開2	展開3
①前時の復習 説明文と論説文の違いとは「こまを楽しむ」の本論の特徴とは T 説明文の特徴とは？ C 専門的な事実を素人にもわかりやすい表現で説明されている T こまを楽しむ」の特徴は？ C [身近なこまからあまり知られてないこまへと紹介の順序の工夫がある	②「人間は他の星に住むことができるのか」の例示の特徴を分析する。 T この文章の例示は素人にもわかりやすい展開になっているでしょうか。 C この順番に意味はあるのだろうか C 大気や水がない理由をわかりやすく説明している。 C 最後に可能性がある星を持ってくるのはわかりやすい C そもそもこれ以外の星は可能性がないのだろうか	③AI が書いた文章を本文と比較して、どのようなことに留意すべきかを考える。 T AI の書いた文章をわかりやすくするにはどのようなことが出来るだろうか C 言葉を平易なものに直す C 順番を考える C 正しい情報かどうかを精査する	④わかりやすい例示にはどのような工夫が必要なのか。 T どのような意見が出たかを共有したうえで授業者が抽象化してまとめる T 今回分析して学んだ視点を自分の書いた文章に生かしましょう。

講 師
NPO 法人
エデュ・ネットワーク・プラン 代表理事
齊 藤 一 弥 氏
横浜市立学校教諭、横浜市教育委員会勤務、横浜市立小学校校長、島根県立大学教授を経て、現職。
現行学習指導要領の作成に関わるとともに、高知県において学力向上総括専門官、教育課程推進専門官として授業改革に取組み、成果を上げている。

齊藤先生のお話は、裏面へ

Why

なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

What

何を学ぶのか

子供達の学習対象は？

How

どのように学ぶのか

子供達の学習過程は？

24.04.26 次田ニ中 教材研 中横谷 content 国語の年度

① 教育内容 ② 教科内容

1 教科の枠を超えたより広い意味でのコンテンツ

国語の見方、考え方

なぜ学ぶのか

子供達が身につけるべき資質・能力は？

2 教科固有のコンテンツ

なぜトールミン・モデルが注目されているか

批判的思考(クリティカルシンキング)を育成するため思考方法であるから。

批判的思考の育成の目的は、「自分の仕事に責任を持つ」「他者へより自分の考えを積極的に伝える」

今回の提案される授業は、説明的文章だから、言語論理をしっかりと学ばなければいけない。そのためには論理的思考というもののが外すことができない。

その論理的思考は、教科を超えていく。いわゆるキーコンピテンシーと言われる、いわゆる汎用性の高い能力。逆の言い方をすると、国語だけでは育たない。

それぞれの教科がそれぞれの教科の役割を果たしながら、生徒1人1人の認識を高めていく営みをぜひこれからもチャレンジしてほしい。

1 教科の枠を超えたより広い意味でのコンテンツ

現行指導要領では、教科の枠を超えたより広い意味でのコンテンツは「見方、考え方」と言われている。

国語の見方、考え方⇒言葉と言葉、言葉と対象の関係性を、状況や目的に合わせて捉え直して、再構築を図ること。

どの教科でも「教育的認識」を働かせている。より深い認識を育てるために教育は行われている。

※教育的認識⇒情報や事象を理解して、自分の知識として取り込むプロセスのこと。

国語科で育成する教育的な認識

中学校・高校

小学校

音楽でも

数学でも

順序・展開

比較(類比・対比)

理由・根拠・原因

認識の仕方

多面的・多角的

象徴的・弁証的

主体的・典型的

論理的・実証的

理由、根拠、原因、構成、構造、関係といった見方ができたその先に論理的といった認識の仕方ができる。

中学、高校になるとより高次の認識の仕方になる

認識の仕方を教科が役割分担しながら育てている

国語科の学習過程とのリンク

① 構造と内容の把握

② 精査・解釈

③ 考えの形成

④ 共有

③考えの形成では、主観を入れて説明する。これはトールミンモデルの理由付けと位置関係が全く同じ。

根拠とは、客観的なデータ

主張とは、結論

理由付けとは、事実や事実とかデータに基づく、基づく推論、推論とか解釈のこと。根拠と主張の間に理由付けをするということがものすごく重要。多くの場合、理由付けが欠落する

昨今、国語教育でも注目されているのが「トールミン・モデル」

理由付け

根拠

主張

国語科の教科内容とトールミン・モデルの思考の仕方(批判的思考)

語レベル

語の用法の明確さ

→定義、意味、用法(言語事項)

文レベル

証拠となる事実、データ

→事例の信憑性

証拠に対する反論

文章レベル

論の進め方

構成、展開

説明的文章

日常用語

→実用性

言語論理

発言者主体

→筆者が伝えたかった事

論理的思考

論理的表現

文学的文章

文学用語

→美的機能

文学教育

受信者主体

文学的認識

言語感覚

→比喩、アイロニー、ユーモアを読み取る

受講者の感想

●今回は国語科の指導案で研修させていただいたが、批判的思考を他の教科の先生がどのようにとらえているか知ることができ、自分の教科への生かし方が学べました。(Y先生)

●能力ベースの学習を行うことで主体的に学ぶ力を育て、どの教科にも共通する論理的思考、多面的に捉える力などを身に付けることができる。それが生きる力を育てることにつながる。(K先生)